

就職活動を振り返って

NHKに内定 都倉悠太さん (ネット情報4)

「スポーツの感動を伝える仕事をしたい」。難関を突破して実力重視の日本放送協会(NHK)のアナウンサーに内定した都倉悠太さん(ネット情報4)に、その道のりを聞いた。



(エントリーシート提出)と青字(面接)でびっしり。北は北海道から南は沖縄まで、全国の地方局にアタックした。

だが、なかなか内定をもらえない。大事な面接で、のどに痰が絡み、うまく話せず涙を流したこともあった。そんな失敗や試験を力に変え、貫き通したのは、「素直でありたい」「正直でありたい」という謙虚な気持ち。

就職活動中の手帳にはスケジュールがびっしり

内定にびっくり

その実りは日本を代表する放送局内定だ。「落ちて当たり前と思っていた自分が一番びっくりしました」

小・中・高と野球に打ち込んだ。大学ではスキーの愛好会に。全日本スキー連盟の基礎スキー技能検定2級を取得した。

野球の実況訓練

山本講師からは「自分

就職支援プログラム「アナウンサー講座」で山本勇、若林健治両講師から社会人としての心構えもたき込まれた。

週末には神宮球場で東都大学野球や六大学野球の実況訓練を重ねた。実際に79社14件に提出したというエントリーシートには、生き生きと活動した数々の学生生活の写真を添え、就職活動学生生活残りの6カ月間に臨んだ。3、4月の「就活」最盛期の手帳は赤字

アナウンサーの夢 抱き続けて 全国の放送局にアタック

3年次には1年間休学

腕に覚えあり カードマジック

大塚尚幸さん (ネット情報4)



鳳祭で公演

「今年は司会、音楽、とカードをさばく技術を目指し、6人中5位という成績を残した(放映は昨年11月5日)」。大学生生活最後の鳳祭で見応えあるマジックショーを、と大塚尚幸さん(ネット情報4)は、マジックサークル(徳田知希代表)文3、45人の代表だった1年前、テレビ朝日の深夜バラエティ「お願ひ!」に出演。人気マジシャンの目若らプロ

が自身にもメンバーもみなる。学部で学んだ知識を生かし、大塚さんが昨年末にホームページをリニューアル。依頼を受け、神奈川県内や都内の小学校、老人ホームなどで大塚さんや後輩らがマジックを披露する機会が増えた。

力強く臨書と創作披露

上野の東京国立博物館で開催された台北・故宮博物院特別展「神品至宝」(6月24日〜9月15日)を記念した席上揮毫会に、日本書壇を代表する書家の一人として仲川恭司文学部教授が登場。力強い筆致で臨書と創作を書き上げ、350人で埋まった会場から大きな拍手が寄せられた。

この企画は、同展に出展された書の名品を題材に言葉を選び書き上げる企画で、仲川教授は西周時代(紀元前9〜8世紀)からの青銅器「散氏盤」を題材にして臨書。散氏盤の魅力と特徴を「文字は右下のほうに力が集まっている、右に少し傾いているため、左利きの人が書いたのでは、と言われている」と解説し、字の中心がずれていたり文字がぶれているところを「野性的で素朴な古文字だ」と、その魅力を語った。

創作は「濕」。仲川教授の持ち味である大書で書き上げ、披露されると会場から感嘆の声が。「秘伝」という自ら配合した墨を、さらに濃度を上げることによって、実線がにじみが出るようにした」と明かした。

仲川教授のほかの揮毫者は、石飛博光氏と永守蒼穹氏(いずれも毎日書道会理事)。東京博物館副館長の島谷弘幸氏による軽妙な司会で進められ、揮毫の間には筆の使い方やスピード、リズム、墨の濃淡など書技について話が及び、3氏の個性のぶつかり合いに会場は大いに沸いた。

▲ 創作を書き上げ、解説する仲川教授(中央)。作品がスクリーンに映し出された



18人が参加

BCL・秋期日本語日本事情プログラム

2014年度「日本理解プログラム(BCL)プログラム」および「秋期日本語日本事情プログラム」が9月19日からスタートした。22日にはウエルカムパーティーが開かれ、参加した日本人学生と交流した写真。

期間は12月13日までの12週間。日本語学習のほか、企業見学などのフィールドトリップも体験。留学生のほとんどは6月に誕生した国際交流会館



に入寮。9月9日から始まった寮内留学プログラムの参加生である日本人学生のレジデント・パートナー(RP)とも同居する詳細は次号。